

幸せってなんだろう

戦後奇跡的な復興と経済の繁栄
を手にした日本は、「物で栄えて心
で滅ぶ」と表現されるように、物は
豊かになりましたが、心は貧しく
なってしまったかもしれません。

しかし衣食住に困ればしあわせ
を感じるゆとりもうまれません。

この苦しみを解きほぐすにはどう
すればよいかということと一緒に
考えてみませんか。

仏教は物と心の両面から解決の
ヒントを説いているのです。

あなたのより良い人生のために。

この紙片がすばらしい縁をもたら
す一助となることを心より願って
います。



日蓮正宗 総本山第57世日正上人 御詠歌

何事も ^{おの}己が^{いんが}因果の^{むく}報いぞと

思う心が 仏なりけり

自分の人生に現れる苦・楽、幸・不幸は
全て、自分自身の行動の結果です。
現在から未来へ、善因^{ぜんいん}を積む・精進を
する自分に成長することが大切です。

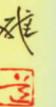


心を磨く

過去と他人は

変えられませんが

自分と未来は変えられます



仏さまの教え

いまからおよそ三千年前、お釈迦様は人生において八つの苦しみがあることを説かれました。

四苦八苦という言葉がありますが、それは生苦・老苦・病苦・死苦の四苦に、愛別離苦・怨憎会苦・求不得苦・五陰盛苦を合わせた八つです。

つまり人は老いや病に苦しみ、望むものは手に入らず、愛する人と別れ、憎しみを抱く人と会いながら、生きていかなければならないのです。

人類有史以来どんなに栄華を極めた人でも、どんなに健康を誇った人でも、この苦しみにあわなかった人はいません。

どうすれば充実した価値ある人生を送れるのでしょうか。



限られた時と自分

美しく咲いた桜もやがては散りゆくように、私達は必ず死を迎えます。

では何のために生きているのでしょうか。

お金は生きるために様々な物品を手に入れる手段として役立ちますが、人生の目的ではありません。

また地位や名誉も、子孫や友人が多くいることも、人生を豊かにしてくれますが、目的とは言えないでしょう。

仏さまは人の生きる真の目的を「仏に成る」ことであると説いています。

「煩惱の犬 追えども去らず」

衣食を満たしてより快適に暮らしたい、といくら追い求めても際限がありません。人の欲に限りはありませんから、蔵の財より心の財を満たしてみようはどうでしょう。

きつとしあわせに満ちた心で生活をする自分に出会えることでしょう。

他人は自分を映す鏡

自分が不満の多い人生であれば、同じく不満の多い人生を送る人たちがまわりに集まるでしょう。

自分が感謝に満ちた努力の人生を歩めば、多くの良き友を得るでしょう。

自分自身の人間性を磨き、心豊かな人間へと成長することは、しあわせな人生を送る最良の方法でしょう。

日蓮大聖人様は、

「人々の心は汚れた鏡のようなものである。鏡も磨けば光り輝くように、人々の心も磨けば仏さまのように美しく、すばらしい心と成るのである。

どの様にして磨くのかと言えば、南無妙法蓮華經と唱えることによって磨くのである。」

と仰せです。

仏さまに手を合わせて自分の心を磨いていきませんか。